

目標のステージは地球に

テレビ東京系列の経済番組「ワールド・ビジネスサテライト」のメインキャスターとして、ブラウン管でもおなじみの野中ともよさん。社会に出てから、常に自分の実力だけを信じ、そしてそれを武器にフリーのジャーナリストとして活躍している野中さんの人生哲学と、仕事・家庭への思いをお聞きしました。

ジャーナリストへの道

「目の前の面白さにつづり
四つに組んできた」

—テレビで拝見しているので意外ですが、最初はジャーナリストの中でも、写真、つまりフォトジャーナリストを目指していたんですね。

そうですね。大学の授業では、テレビ制作などジャーナリズム全体のことを学んでいたのですが、卒業論文で「中国のコミュニケーションシステム」をテーマにしたのがきっかけです。「ぜひ中国をこの目で見たい!」と、外務省で試験を受けて、ある視察団の一員として中国へ行きました。当時は、国交正常化の問題で、旅行者は全然受け入れてくれなかったのですから。

そこで目の当たりにした中国の姿……はるかに続く万里の長城、町では幅100メートルくらいで洪水のように流れる自転車、大勢の人々のうごめき、呼吸などに圧倒さ

れました。

卒業論文とは別の次元で、この状況をどうやって人々に伝えればよい



のなか
野中ともよ さん

上智大学文学部新聞学科卒。同大学大学院文学研究科新聞学専攻修士課程修了。大学院在籍中、1年間米コロンビア大学大学院に留学し、フォトジャーナリズムを専攻。79年、来日アーチストの通訳を務めたのがきっかけでNHKにスカウト。以後、通訳、リポーター、キャスターとしてNHK「海外ウィークリー」「サンデー・スポーツ・スペシャル」などに出演。87年春から、中京女子大学コミュニケーション研究所の客員教授。92年10月よりテレビ東京系列の経済番組「ワールド・ビジネスサテライト」のメインキャスターとなる

ーナショナル・ラングエージでしょ。そこで「映像をジャーナリストティックに使いこなせる人間になりたい」と思ったのです。思ったらやらないと気が済まない性格ですから(笑)、日本に帰ると今度は、フォトジャーナリズムの本場・米国へ行きました。

—すばらしい行動力ですね。

「これだ!」と、初めて寝食をも忘れて打ち込めるものに会ったのです。

向こう(米国)はまさに実践教育

言われて(笑)。大学院へ行って、米国で経験があつて、理論もかじつて、一番使いにくいおねえさんだったわけです。確かに当時、女性のカメラマンは一人もいませんでしたけど、でも新聞社の名刺が欲しいわけではなかったの、「まあいいや!」と思つて、雑誌向けにフリーで写真を撮つて、原稿も書いて、ということをやっていました。

そのころたまたま、来日したアーチストの通訳を頼まれたのをきっかけに、天下のNHKから(笑)話が来て、リポーター、キャスターになつていったわけですね。映像という点では、私が学んだことが活かせると思いました。この世界も入ってみると、非常に面白い。設備にしても、スタジオなんて大学の何百倍のクオリティだし。常に目の前にある面白さにつづり四つに組んで、ここまで来たという感じですね。

目標を実現させる意思

「自分が好き、楽しいと思えることを大切に」

—自分で目標を立て、そしてそれを実現していくために必要なことは何でしょうか?

まず目標のステージは、地球に置

かを考えたのです。—そこで必要なのが、映像メディア、つまり写真だったと。ええ。「遠くに続く万里の長城を踏む時考える。その石垣一つひとつに刻まれた歴史を……」なんて書くのもいいけど、1枚の写真にはかなわない。さらに写真は、日本語でも、英語でも、フランス語でもない、インタ

でした。大学院の交換留学生として行ったのですが、地元の新聞社で特ダネ写真を撮らないと単位をくれないというシステム。新聞社も半分がプロのスタッフで半分は学生。新聞経営にも関わり、1年間実践的にしごかれましたよ。それで日本に帰ってきて新聞社に行ったら「ウチは女性採らん」と

特集

野中さんの1日のスケジュール

6:30	起床、朝食準備
7:00	朝食（家族一緒に） 子供、ご主人の見送り
8:30	後片づけ、洗濯など家事
10:00	新聞等で情報収集 時間があれば仮眠
11:00	外出
12:00	打ち合わせ等のため外で昼食
13:00	取材、原稿執筆、講演など
17:00	買物、夕食準備
18:00	夕食（家族一緒に）
19:30	テレビ局入り
20:00	最終ミーティング
23:00	番組放映
～23:50	「ワールド・ビジネスサテライト」
1:00	帰宅
2:30	就寝

私の場合も今振り返ってみると、何となくこういう風になりたい、というプランは、いつもイメーজとしてありました。ですから、今という時間につぶり四つに食いついて、

——野中さんは、社会に出てからずっとフリーでやってこられたわけですよ。

ええ。大きなことは言えませんが、何度か社員にならないかという話をいただいたこともありま。確かにそのうすれば保険はあるし、年金は出るし非常に安定している。でも私は、リスクがあっても自分

自分が好きだ、楽しいと思うことは、その人の持っているポテンシャルな資質を活かせる分野だと言いますからね。

自分を活かせない、などと考えるのは、自分で自分の首を絞めているようなものです。その限界値があっても、なおかつその中で自分の才能を活かせるような仕事の仕方というのは、いくらでも見えてくるのではないのでしょうか。

くべきですね。地球上の自分という一粒の命を考え、1回しかない人生、一度しか味わえないから「何やろうかな」とワクワクすることから始めた方がよいと思います。自分がとりあえずハッピーになることをイメージしていつて、自分自身を知る旅をまず最初にするのです。

まずその枠を取って考えて、自分の思う方向を見極めたら、それからそれを労働、会社の仕事の分野に求めてもいいわけです。ただこの時に上司と合わないとか、今の仕事では自分を活かせない、などと考えるのは、自分で自分の首を絞めているようなものです。その限界値があっても、なおかつその中で自分の才能を活かせるような仕事の仕方というのは、いくらでも見えてくるのではないのでしょうか。



面白いと思う方向に素直にエネルギーを傾ける、その連続と、プランを見据える意思の目があるなら、必ず道は開けてくると思います。

のやりたいことをしていききたいのです。

日常生活の留意点
「いかにオフルか」

——メインキャスターを務めている番組の性格上、毎日の情報収集も大変ではありませんか？

家庭を持ってますし、子供もいますから、まさに寸暇を惜しんで、という感じです（笑）。

新聞はもちろんですが、パソコン通信、インターネットも活用して、情報収集に精を出してますよ。テレビ局とのメニューのやり取りはFAXを使っていますし。

——日常生活で留意している点はありますか？

いかにしてオフルかです（笑）。引きずろうと思えば、家でもどこでも全部仕事場になってしまいます。電話やFAXも容赦なく家の中に入り込んできますから。

仕事を主軸にして、子供にああしなさい、こうしなさいなどやっていると、それはもし自分が子供の立場ならたまらないだろうと思いますからね。だから子供の前では、「キャスター」

番組紹介



「ワールド・ビジネスサテライト」

野中ともよさんがメインキャスターを務める経済番組

テレビ東京系列 月～金 23:00～23:50

の時と周波数を全部変えて、「母親」として付き合うようにしています。ちょっと周波数の変え方が甘かったら、子供にはすぐトゲトゲしく見えるようです。それから朝夕の食卓の時間だけは、家族全員で囲むように大事にしています。

——野中さんから見て、富士通はどんな会社でしょうか？

ハード屋という顔からソフト屋という顔へ、ものすごい勢いでシフトしようとしている印象があります。今までガチガチのエンジニアだった人たちが、発想を変えて、特にコンテンツの分野では喜々として遊び心を持っていらつしやる。

ああいうものをビジネスとして取り入れる柔軟さ、この窓口の広さが、21世紀に富士通のようなガリバー企業が生き残る唯一の道だと思っています。これはヨイショでも何でもなしに（笑）、そういう感じがします。